

# 歴史人物を描いた文学作品 6

## はじめに

「歴史人物を描いた文学作品」の第6回目は、江戸幕末から昭和初期までの歴史人物 28 人と関連する 2 つの組織を描いた文学作品を紹介します。土方歳三から与謝野寛 [鉄幹]・晶子まで、作家の目を通した歴史人物を歴史小説という形で再認識していただければと思います。

なお、ここで紹介しました歴史小説は、資料リストも含めその人物を描いた全作品を紹介している訳ではなく、当館で選択させていただいた作品です。

## [資料リスト](#)

### 1. 土方歳三 (ひじかた としぞう) 天保 6 年(1835)～明治 2 年(1869)

武蔵国多摩郡石田村に生まれた新撰組の幹部です。近藤勇と同郷で文久 3 年(1863)近藤と共に新撰組に参加しました。上洛して討幕運動の警戒にあたり、近藤が組長になると副長になります。明治元年(1868)に鳥羽・伏見の戦いの際は、病の近藤に代って隊を指揮しました。その後も官軍に抗戦し、宇都宮から会津に後退し仙台から箱館へ逃れました。ここで榎本武揚の指揮下となり函館五稜郭で交戦中戦死しました。

### 2. 沖田総司 (おきた そうじ) 天保 13 年(1842)～明治元年(1868)

新撰組隊士。文久 3 年(1863)近藤勇らと上洛し、新撰組副長助勤となります。のち一番隊長になり、元治元年(1864)池田屋事件などで活躍しますが、肺病が悪化し江戸に引き上げました。松本良順宅などで療養しましたが江戸千駄ヶ谷の植木屋で没したといわれます。

### 3. 新撰組 (しんせんぐみ)

幕末期に幕府が浪士らを集めて作った武力組織です。幕府は浪人の懐柔統制のため浪士組の結成をはかり、近藤勇・土方歳三らが参加して文久 3 年(1863)に浪士組を結成しました。その数は 300 人を超えたといわれます。山岡鉄太郎と清河八郎の指導で京都に向いましたが、その後尊王攘夷の大義を巡って分裂し、清河八郎の一派は江戸に引き上げました。京都に残った浪士組が文久 3 年(1863)2 月、京都守護職松平容保の監督下に入り新撰組を結成しました。同年 9 月以降実権を掌握した近藤は、明治元年(1868)1 月伏見の戦いで敗北のため軍艦で江戸へ脱出し、同年 4 月降伏して捕えられ処刑されました。

### 4. 徳川慶喜 (とくがわ よしのぶ) 天保 8 年(1837)～大正 2 年(1913)

水戸藩主徳川斉昭の 7 男。14 代将軍を井伊直弼らの推す徳川慶福と争って敗れ、安政の大獄の際隠居謹慎を命じられますが、井伊直弼没後謹慎を許されて天下の衆望を集めます。文久 2 年(1862)将軍家茂の後見職になって、慶応 2 年(1866)に 15 代将軍就任しました。翌年大政奉還を行い、鳥羽・伏見の戦いでは将兵を残して江戸に戻り寛永寺で謹慎しました。のち徳川家達が宗家を相続すると静岡に移りました。

### 5. 彰義隊 (しょうぎたい)

明治維新に際し、徳川慶喜側近の旧幕臣を中心に結成された隊で、上野に立て籠もり新政府

軍と戦いました。寛永寺大慈院に謹慎していた慶喜の護衛を名目に集結した旗本・浪士は 3000 人に達しました。彰義隊は旧幕府有志や勝海舟らの解散の勧告も聞かず新政府軍との対立を深め、明治元年(1868)5 月新政府軍は彰義隊に総攻撃を加えました。新政府軍の攻撃で彰義隊は一日で壊滅しました。

#### 6. 山内豊信【容堂】(やまのうち とよしげ【ようどう】) 文政 10 年(1827)～明治 5 年(1872)

嘉永元年(1848)15 代土佐藩主となりました。万延元年(1860)以降公武合体運動を進め、文久 3 年(1863)8 月 18 日の政変後は公武合体運動の中心人物となります。しかし、尊王攘夷運動はますます激しくなったため帰国しました。慶応 2 年(1866)幕府の長州再征伐が失敗すると、大政奉還を徳川慶喜に建白しました。慶応 3 年(1867)王政復古後の小御所会議で慶喜を擁護する容堂の意見は抑えられ、戊辰戦争が起こりました。

#### 7. 島津久光(しまづ ひさみつ) 文化 14 年(1817)～明治 20 年(1887)

嘉永 4 年(1851)藩主斉興の後嗣を巡って藩内が対立し(お由良騒動)、久光が敗れて斉彬が藩主になりました。斉彬の死後は久光の子の忠義が藩主となり国父と呼ばれました。文久 2 年(1862)上洛し、ついで公武合体運動を推進するため江戸に入り一橋慶喜を将軍後見職、松平慶永を政事総裁職に任じて自らの幕政改革案を認めさせました。京都への帰途生麦事件を引き起こし、その後帰国しています。文久 3 年(1863)8 月 18 日の政変後上洛し、元治元年(1864)禁門の変で長州藩兵を破り公武合体派の中心となりました。王政復古の際は引退していました。

#### 8. 大村益次郎(おおむら ますじろう) 文政 7 年(1824)～明治 2 年(1869)

幕末・維新期の兵制家で医師村田孝益の子です。周防国吉敷郡の生まれ。慶応元年(1865)大村益次郎と改称しました。初め医学を修め嘉永 3 年(1850)に郷里で医業を開きます。ペリー来航後宇和島藩で西洋兵書の翻訳、軍艦製造などを指導し、のち江戸に出て講武所教授などを務めました。大村の名声を聞いた長州藩が出仕を命じ、長州再征伐などで力量を認められて兵制改革を進めました。王政復古後は京都の軍務局で親兵の編成にありました。

#### 9. 河井継之助(かわい つぐのすけ) 文政 10 年(1827)～明治元年(1868)

長岡藩家臣で、幼年の時に佐久間象山などに学びました。安政 3 年(1856)に家督を継ぎ、文久 3 年(1863)藩主牧野忠恭が老中になると公用人になり頭角を表わしました。長岡藩は戊辰戦争で中立の立場をとり、反意が無い旨を官軍の軍監に申し入れましたが容認されず、抗戦を決意しました。陥落した長岡城を奇襲で奪還した際負傷し、会津に向かう途中没しました。

#### 10. 川路聖謨(かわじ としあきら) 享和元年(1801)～明治元年(1868)

文政元年(1818)支配勘定出役となり、仙石騒動の裁きを認められ勘定吟味役となりました。天保 11 年(1840)佐渡奉行、ついで奈良・大坂町奉行を歴任しました。嘉永 5 年(1852)勘定奉行兼海防掛になり、安政元年(1854)日露和親条約を締結しました。安政 5 年上洛して(1858)日米修好通商条約締結の勅許を得るため老中堀田正睦を補佐しました。井伊直弼が大老になると失脚し、文久 3 年(1863)外国奉行に就任しますが数か月で辞任し、明治元年(1868)江戸開城の翌日に自殺しました。

#### 11. 小栗忠順(おぐり ただまさ) 文政 10 年(1827)～明治元年(1868)

小栗家は家禄 2500 石で安政 6 年(1859)目付に就任し、翌年日米修好通商条約批准書交換のため渡米しました。帰国後外国奉行、その後勘定奉行と町奉行を兼任し、陸軍奉行・軍艦奉行を歴任しました。フランス式軍制を採用して洋式訓練を行い軍事力の強化を行う一方、貨幣制度・税制度の改革を図りました。大政奉還後も薩長の打倒を図りましたが、明治元年(1868)2

月知行地の上野国群馬郡に居住して農兵の養成などを行いました。同年4月官軍に捕えられて刑死しました。

## 12. 西郷隆盛（さいごう たかもり） 文政10年(1827)～明治10年(1877)

薩摩藩士西郷吉兵衛の長男。安政元年(1854)藩主島津斉彬の知遇で御庭方役として国事に奔走しました。安政5年(1858)安政の大獄と斉彬病没に絶望して自殺を図りましたが蘇生し、奄美大島に流されました。文久2年(1862)許されて上洛したものの、島津久光の怒りに触れ沖永良部島に流されます。元治元年(1864)許されて上洛し、禁門の変、第一次長州戦争には幕府側の指導者として活躍しました。その後藩論を公武合体から尊王討幕へ転換させ、慶応2年(1866)薩長連合盟約を結びました。明治元年(1868)王政復古のクーデターに成功し、戊辰戦争では官軍の指揮を執り、江戸城無血開城を成し遂げたのち帰藩しました。その後、新政府に招請され廃藩置県に協力し、明治6年(1873)征韓論を主張して大久保らと対立したため帰郷しました。不平士族に擁され明治10年(1877)西南戦争を起こして敗れました。

## 13. 大久保利通（おおくぼ としみち） 天保元年(1830)～明治11年(1878)

藩主島津斉彬のもと薩摩藩の改革派の中心として活躍し、斉彬の死後島津久光の下で公武合体運動を進めました。のち木戸孝允と結び薩長連合を成立させ討幕派の中心となります。その後討幕密勅の降下、王政復古などで指導的役割を果たしました。新政府では木戸らと版籍奉還を実現し、廃藩置県を成し遂げました。征韓論には反対し地租改正・殖産興業など資本主義育成政策をとりました。明治7年(1874)佐賀の乱を処理し、明治10年(1877)西南戦争の危機を乗り越えて、三新法の成立を目指す途中で暗殺されました。

## 14. 榎本武揚（えのもと たけあき） 天保7年(1836)～明治41年(1908)

幕臣榎本武規の次男で少年時代は昌平黌で学び、嘉永6年(1853)幕府の海軍伝習生として長崎に学びました。安政5年(1858)江戸に戻り海軍操練所教授になり、文久元年(1861)幕艦開陽丸建造にあたりオランダへ留学し、帰国後は海軍奉行になります。明治元年(1868)新政府軍が江戸占領の際は、軍艦引き渡しを拒否し江戸湾を脱走して函館五稜郭に立て籠もり抗戦しました。敗戦後は帰順し特赦の後北海道開拓使を命じられました。

## 15. 伊藤博文（いとう ひろぶみ） 天保12年(1841)～明治42年(1909)

百姓林十蔵の子で萩の足輕伊藤直右衛門の養子になりました。初め松下村塾で学び、木戸孝允に従い尊王攘夷運動に参加し、四国連合艦隊の下関砲撃以後討幕運動に参加しました。新政府では要職に就き、明治4年(1871)岩倉具視の遣外使節団の副使として欧米を視察しました。帰国後は征韓論を制圧し、大久保利通の死後は内務卿となり、明治14年(1881)の政変後は最高指導者となりました。翌年憲法調査のため渡欧し、帰国後内閣制度の創設、大日本帝国憲法制定など天皇制確立のため尽力しました。明治18年(1885)内閣制度創設とともに初代総理大臣になりました。

## 16. 岩倉具視（いわくら ともみ） 文政8年(1825)～明治16年(1883)

岩倉具慶の養嗣子。安政元年(1854)孝明天皇の侍従となり、安政5年(1858)堀田正睦の日米修好通商条約勅許に対し公卿88人と結束して反対しました。のち公武合体を唱えて和宮降嫁を推進して尊攘派に弾劾され、文久2年(1862)辞官落飾して蟄居します。慶応3年(1867)蟄居を赦されると大久保利通らと王政復古を策しました。新政府樹立後は要職を歴任し、自由民権運動の抑圧と天皇制擁護のため立憲方策をとりました。



### 17. 江藤新平 (えとう しんぺい) 天保5年(1834)～明治7年(1874)

佐賀藩下級武士の子。文久2年(1862)脱藩して上洛し、公卿に接近したため藩から永蟄居を命じられ、慶応3年(1867)王政復古で許されます。倒幕の東征大総督府の軍監になり、江戸鎮台の判事となりました。明治5年(1872)司法卿となり司法権の独立、警察制度の統一を図り、民法草案を編さんしました。西郷隆盛らの征韓論に同調して辞職し、明治7年(1874)佐賀の乱を引き起こしましたが鎮圧され刑死しました。

### 18. 板垣退助 (いたがき たいすけ) 天保8年(1837)～大正8年(1919)

土佐藩士板垣栄六の長男。幕末期は討幕派に属し、戊辰戦争では会津攻略に功績がありました。のち新政府の参議になりますが征韓論に敗れて下野しました。明治7年(1874)愛国公党を立党し、高知では立志社を起こして自由民権運動の先駆けとなりました。明治14年(1881)政府の国会開設の約束と共に自由党を結成しました(明治17年解党)。明治23年(1890)政治的結集をはかり愛国公党を起こし、立憲自由党に合流しました。翌年自由党に改組して総裁に就任しました。明治29年(1896)第2次伊藤内閣の内相となり、自由党・改進黨が合流して憲政党ができると大隈重信と並んで同党首領となり、第一次大隈内閣の内相に就きます。明治33年(1900)立憲政友会結成に際し、憲政党を解党して合流し政治的生命が終わりました。

### 19. 福沢諭吉 (ふくざわ ゆきち) 天保5年(1835)～明治34年(1901)

中津藩士福沢百助の5男。万延元年(1860)～慶応3年(1867)は幕府に出仕し、3度に渡り幕府遣外使節に随行して欧米を視察しました。明治元年(1868)慶応義塾を創設し、また「西洋事情」を刊行して欧米文明の紹介に努めました。廃藩置県後は明治政府を文明開化の推進者とみなし、明治初期には封建思想を批判して近代的合理主義の立場をとりました。明治10年代は民権運動を批判し、明治20年代は帝国主義的な道を構想するに至りました。

### 20. 樋口一葉 (ひぐち いちよう) 明治5年(1872)～明治29年(1896)

歌人中島歌子の塾で早くから歌の才能を示しました。明治22年(1889)父の死で一家の生計をたてるため小説を書き始め、明治24年(1891)半井桃水に師事して作品を発表しました。明治26年(1893)創刊の「文学界」同人との交友で影響を受け、社会を現実的に見つめそこに生きる人々の姿を生活の中から生まれる言葉で表現しようと思いました。こうした自覚から「たけくらべ」「にごりえ」「わかれ道」などの傑作が生まれました。

### 21. 竹久夢二 (たけひさ ゆめじ) 明治17年(1884)～昭和9年(1934)

岡山県に生まれ一時文学の道を目指しましたが転じて絵画の道に進み、藤島武二の作品にあこがれて夢二という号を付けました。24歳で岸たまきと結婚し、彼女をモデルに目の大きな女性を描き、この夢二式美人画は明治末から大正初期にかけて一世を風靡しました。

### 22. 正岡子規 (まさおか しき) 慶応3年(1867)～明治35年(1902)

松山藩御馬廻加番正岡隼太の子。東大中退後、明治25年(1892)下谷上根岸に居住し俳句研究に没頭しました。俳諧の新たな史的考察によって俳句革新を志し、また文学的価値を俳句に求め、写生句を主張しました。子規の元に高浜虚子・河東碧梧桐・夏目漱石などが集まり俳壇の中心勢力になりました。

### 23. 森 鷗外 (もり おうがい) 文久2年(1862)～大正11年(1922)

津和野藩典医の子。東大医学部卒業後軍医となり、明治17年(1884)ドイツへ留学しました。明治21年(1888)帰国後、陸大・軍医学校の教官となります。明治23年(1890)小説「舞姫」を発表し、小説家・翻訳家・評論家として活躍しました。日清・日露戦争に出征し、明治40年

(1907)軍医総監になりました。軍医としての公的生活と、文学者としての私的生活との整合性に苦闘し、それが鷗外の文学に色濃く反映されています。

**24. 津田梅子 (つだ うめこ) 元治元年(1864)～昭和4年(1929)**

津田仙(佐倉藩士の家に生まれ、幕臣津田家に養子に入る)の次女で、明治4年(1871)岩倉具視遣外使節の一行と共に、女子留学生の1人として8歳で渡米しました。明治15年(1882)に帰国し。のちに華族女学校に勤務しました。明治22～25年(1889～1892)に再び米国に留学し、明治33年(1900)に女子英語塾(津田塾大学)を設立しました。

**25. 明治天皇 (めいじてんのう) 嘉永5年(1852)～明治45年(1912)**

孝明天皇の皇子。母は中山慶子。慶応2年(1866)孝明天皇の薨去で翌年踐祚しました。明治元年(1868)3月五ヶ条の誓文を發布し、同年9月明治と改元して一世一元制としました。翌年(1869)には江戸を東京と改めました。天皇親政の大義名分のもと王政復古を実現し明治新政府を成立させました。明治22年(1889)大日本帝国憲法の発布など絶対主義的な天皇制国家を完成させ、対外的には日清・日露の両戦争での勝利や韓国併合など国権を伸張させました。

**26. 乃木希典 (のぎ まれすけ) 嘉永2年(1849)～大正元年(1912)**

長府藩士乃木希次の三男。若い頃は吉田松陰に心服し、慶応2年(1866)山県有朋らに従って幕兵と戦いました。維新後親兵として伏見に入営し、明治4年(1871)陸軍少佐になります。西南戦争では軍旗を失い自決をしようとして止められました。日清戦争に出征しのうち台湾総督になります。日露戦争では旅順攻略を指揮しましたが要塞を攻略できず、指揮官が児玉源太郎に代わりました。戦後学習院院長となり、明治天皇が没すると妻と共に殉死しました。

**27. 秋山真之 (あきやま さねゆき) 明治元年(1868)～大正7年(1918)**

伊予に生まれ、海軍に入りました。日露戦争では東郷平八郎司令長官のもとで作戦参謀として、第一次世界大戦では軍務局長として活躍しました。戦術家として知られました。

**28. 小村寿太郎 (こむら じゅたろう) 安政2年(1855)～明治44年(1911)**

明治時代の外交官。飢肥藩士小村寛平の長男。明治13年(1880)米国留学から戻り司法省に入りました。明治17年(1884)外務省に移り、明治21年(1888)井上馨・大隈重信両外相の条約改正案に反対しました。駐米公使・駐露公使などを務めた後、明治34年(1901)北清事変議定書に調印しました。明治34年(1901)から第一次桂内閣の外相となり、帝国主義政策の推進を主張する一方、英米協調を主軸に大陸発展を企図する小村外交を展開しました。明治38年(1905)ポーツマス条約に調印し、第二次桂内閣でも外相を務め、日露協約締結・韓国併合・関税自主権の回復などを行いました。

**29. 野口英世 (のぐち ひでよ) 明治9年(1876)～昭和3年(1928)**

明治31年(1898)伝染病研究所の助手になりました。細菌学の研究を始め明治33年(1900)渡米してペンシルベニア大の病理学助手になり、明治37年(1904)ロックフェラー医学研究所員になりました。明治44年(1911)梅毒の病原体スピロヘータの純培養に成功します。大正2年(1913)進行性麻痺と脊髄癆が梅毒性疾患であることを明らかにして、その名を世界に知られました。昭和3年(1928)西アフリカのアクラに赴いて黄熱病を研究中に感染してその地で没しました。

**30. 与謝野寛 [鉄幹]・晶子 (よさのひろし [てっかん]・あきこ) 寛 [鉄幹]: 明治6年(1873)～昭和10年(1935)、晶子: 明治11年(1878)～昭和17年(1942)**

**寛 [鉄幹]** :明治・大正期の歌人・詩人。名は寛。号鉄幹。京都に生まれ明治 25 年(1892)に上京しました。明治 33 年(1900)「明星」を創刊し、翌年(1901)鳳晶 (与謝野晶子) と結婚します。短歌革新とともに詩歌による浪漫主義運動の中心になり、多くの秀才が彼の元に集まりました。以後「明星」の主催者として後進の指導にあたりました。**晶子** :堺の菓子商鳳宗七の 3 女。明治 33 年(1900)大阪に来た与謝野寛を知り、明治 34 年(1901)家を出て上京しました。同年処女歌集「みだれ髪」を出版し鉄幹と結婚します。自由奔放に青春の情熱と人間讃歌を歌い上げた「みだれ髪」は、明星派の指標になると共に、浪漫主義詩歌の成立を告げる記念碑的作品になりました。

【参考・引用文献】

『コンサイス日本人名事典』第 4 版 三省堂 平成 16 年

